



介護をはじめとしたワークライフバランス 推進に向けた諸制度とその課題について

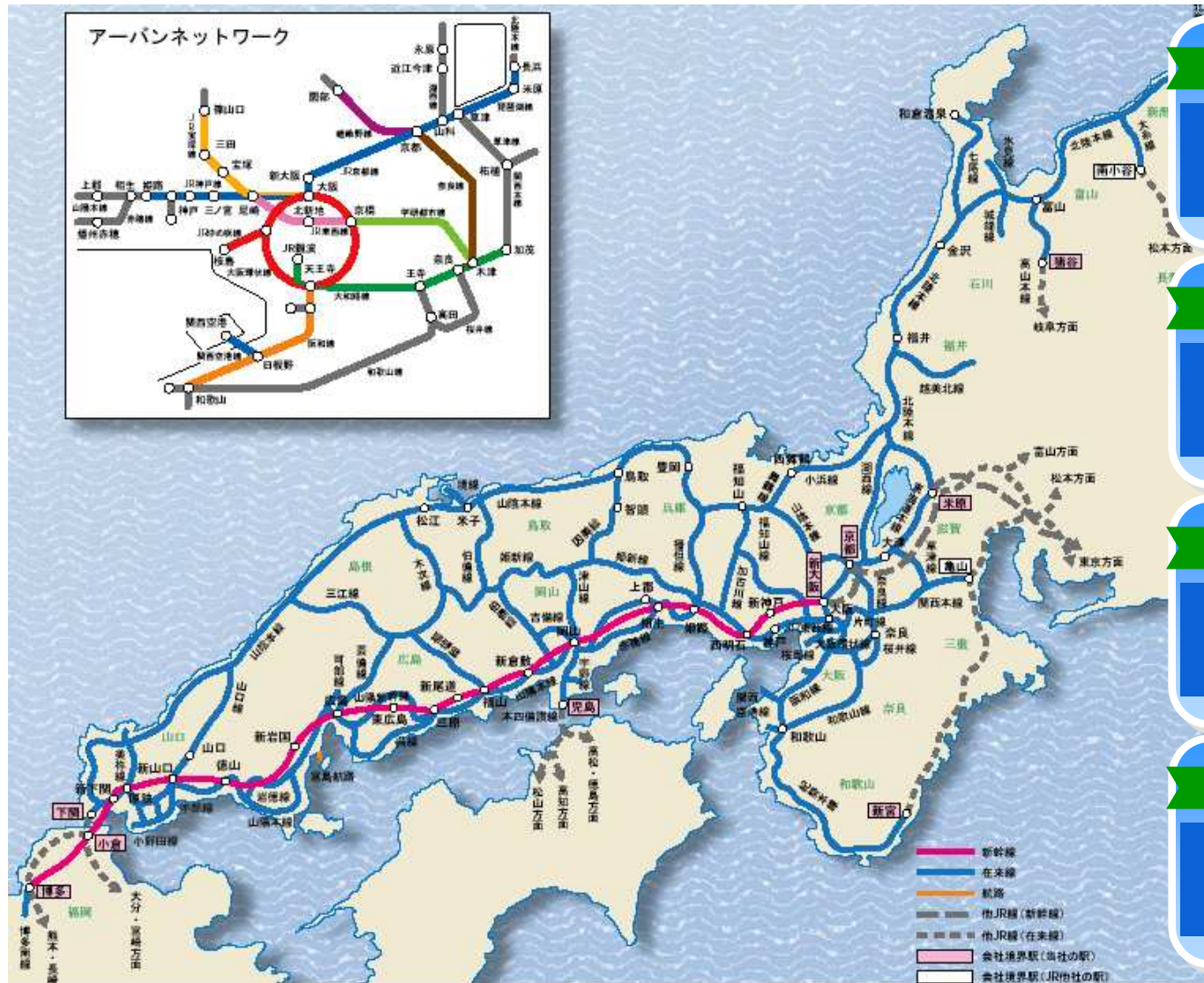
平成23年11月2日

西日本旅客鉄道株式会社



JR西日本の概況

JR西日本の事業エリア



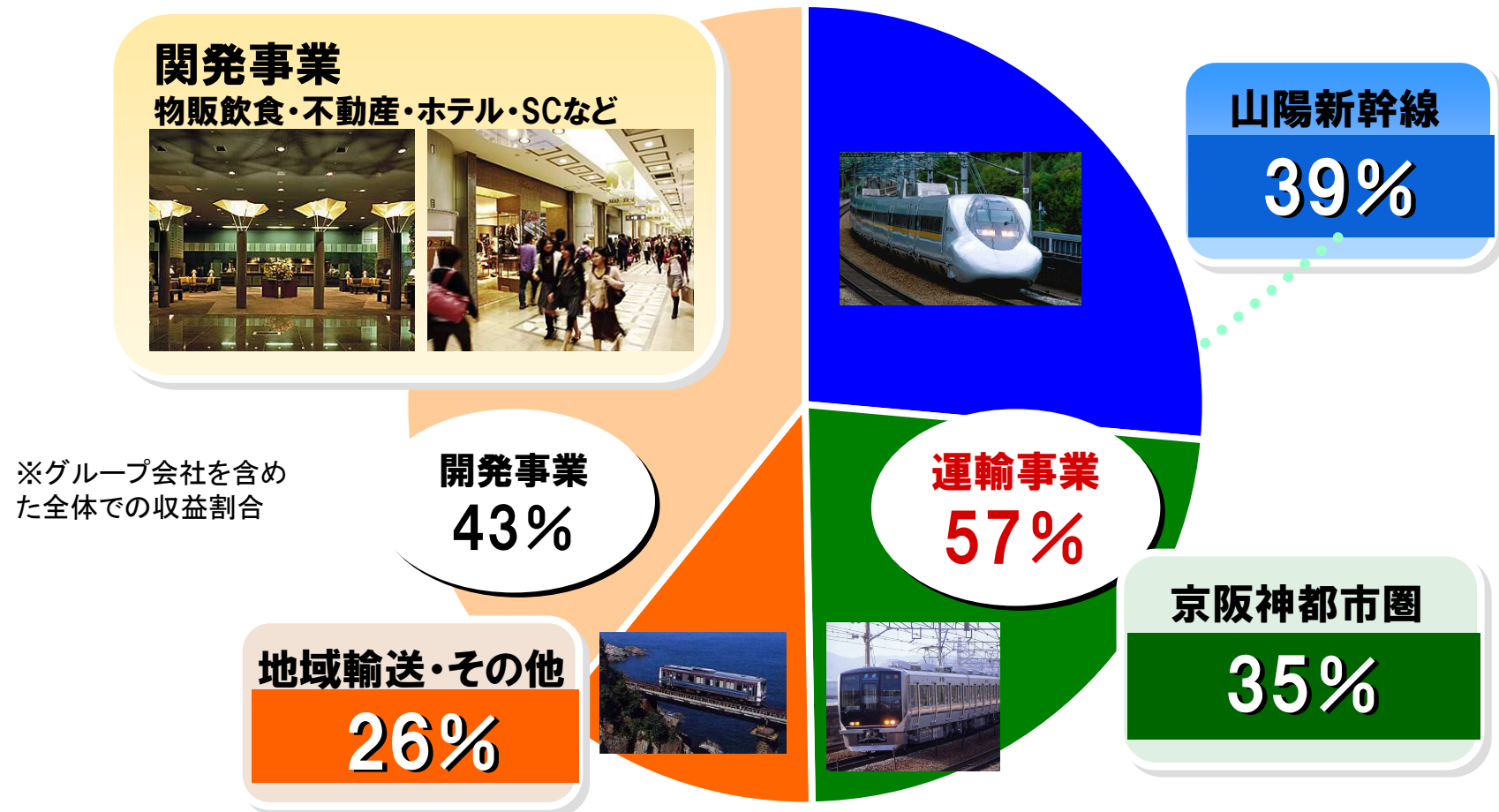
エリア
2府16県

お客様
約500万人/日

路線延長
約5,000km

駅数
1,221駅

JR西日本の事業構造



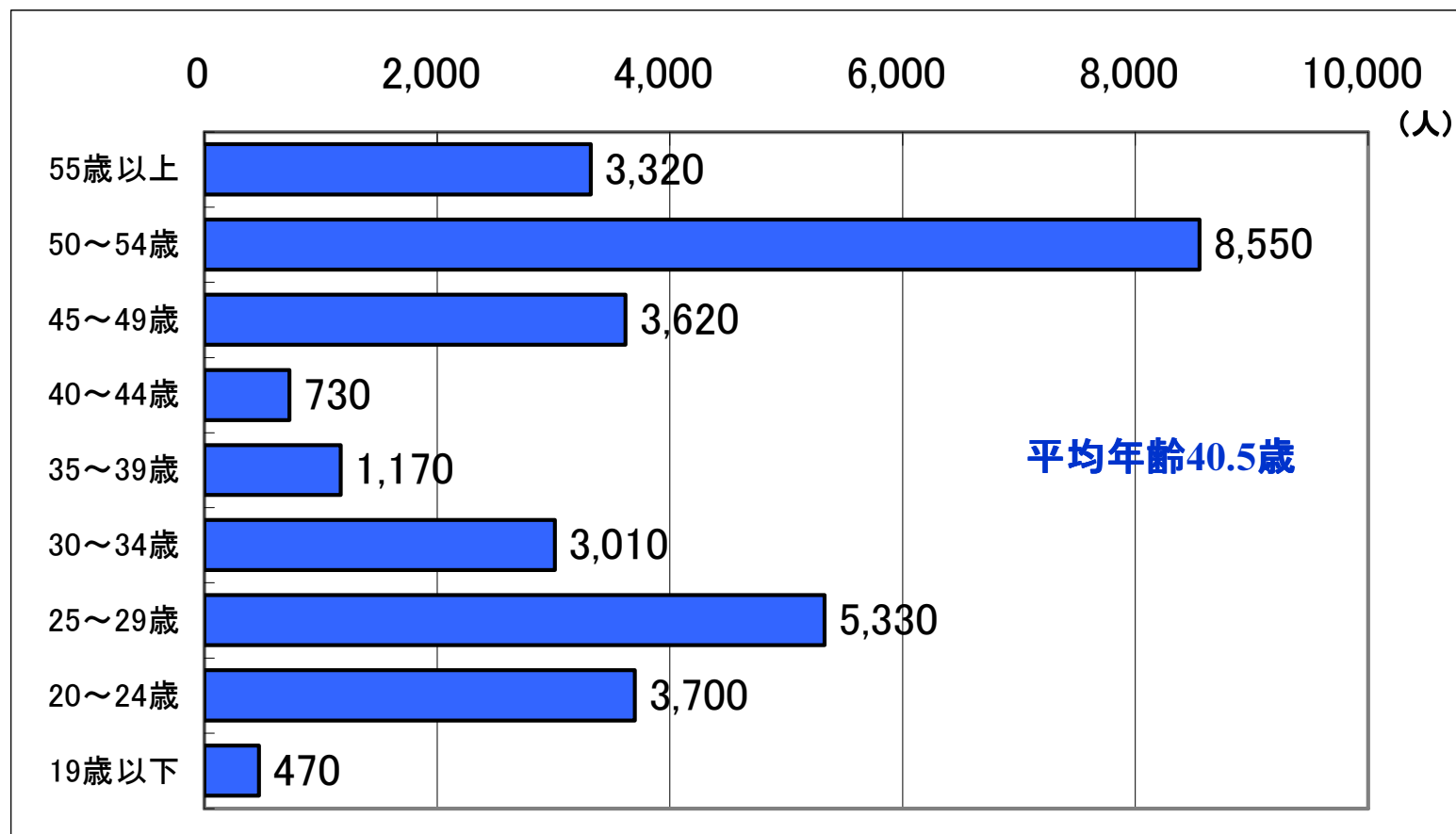
鉄道事業の特性

・・・早朝深夜を含むシフト勤務、異常時における急きよの呼出し等

JR西日本の社員数と年齢構成

社員数: 約30,000名

男性: 約27,000名、女性: 約3,000名 (女性の割合は約1割)



社員構成に関わる課題の変化

**S62年4月の発足時は
相当の余剰人員を抱えて
スタート**

**早期退職優遇制度
を実施**

近年～

中堅社員の不足が顕在化

年齢の歪みを是正すること、安全性向上、着実な技術継承を継続的に行うことが課題

- ・退職を抑制する制度に見直し
- ・定年退職後の再雇用制度の導入及び拡充



ワークライフバランス推進に関する 取組方針と取組み内容

ワークライフバランス推進の取組み方針

ワークライフバランスや次世代育成の取組みは、「ES(働きがい)向上」の一環と認識してスタート

- ・毎年1回、社員に対し「働きがいアンケート」を実施し、施策につなげている
- ・2008年、2011年に「くるみんマーク」を取得
- ・現在、「第3回行動計画」に取り組んでいる。

【第3回行動計画】

◆ 制度を有効活用できる職場風土づくりを進める

- 経営トップメッセージ
- 啓発活動
- 新任管理者教育充実

◆ 育児の時間をより一層確保できる施策を実施する

- 育児に関わる制度見直し
- 時間外労働縮減の取組み



ワークライフバランス推進に向けた主な取組み

全般

- ・半休制度の導入
- ・フレックスタイム制度の適用箇所拡大
- ・年休取得率の向上

出産・育児

- ・短時間勤務制度の導入(満3歳まで)
- ・育児休職期間を3年間に延伸
- ・分娩休暇を産前9週間及び産後8週間に拡大
- ・保存休暇の使用目的拡大(配偶者の出産立会い)
- ・育児等を理由に退職した社員が再就職できる制度の導入
- ・グループ会社によるキッズルーム運営(6箇所)

介護

- ・介護休職の期間(1年間連続しての取得可能)
- ・介護休暇(短縮)の制度
- ・介護休暇
- ・深夜業務の制限措置
- ・介護を目的とする保存休暇

介護に関する休業制度の概要と利用状況

介護に関わる諸制度		日数
①介護休職	要介護状態にある家族を介護する場合に、取得できる制度	連続した1年以内の期間 または通算して93日以内
②介護休暇 (短縮)	要介護状態にある家族を介護する社員の希望日に対して休暇を取得できる制度	通算して93日以内の期間に、 通算して15日を限度
③介護休暇	要介護状態にある家族を介護する場合に、年度ごとに休暇を取得できる制度	各年度に5日以内 (対象家族が2名以上の 場合は10日以内)
④保存休暇 (介護)	失効した年休を保存休暇として積み立て家族を介護する場合に有給で休暇を取得できる制度	各年度に5日以内
⑤深夜業務 の制限措置	要介護状態にある家族を介護する場合に、深夜勤務を制限する措置を行う制度	1箇月以上6箇月以内 (申出回数に制限無し)
⑥時間外労働 の制限措置	要介護状態にある家族を介護する場合に、時間外労働を制限する措置を行う制度	1箇月24時間以内 1年150時間以内

制度面以外の取組み

意識啓発

- ・仕事と家庭の両立支援に向けた意見交換の実施、社内誌での啓発活動
- ・管理指導層への教育実施（管理指導者用マニュアルの作成、配布）

サポート体制

- ・仕事と家庭の両立支援相談室を本社・各支社に設置（14カ所）
- ・ワークライフバランスサポートブックを毎年全社員に配布
- ・育児休職中の社員などに向けた仕事と家庭の両立支援SNS「ハッピー子育てサポートネット」の運営





現状の課題と今後の取組みの方向性

現状の課題

介護

- ・介護は長期間に及ぶケースも多く、現行制度では対応しきれない場合がある。
- ・制度が非常に複雑になっている。

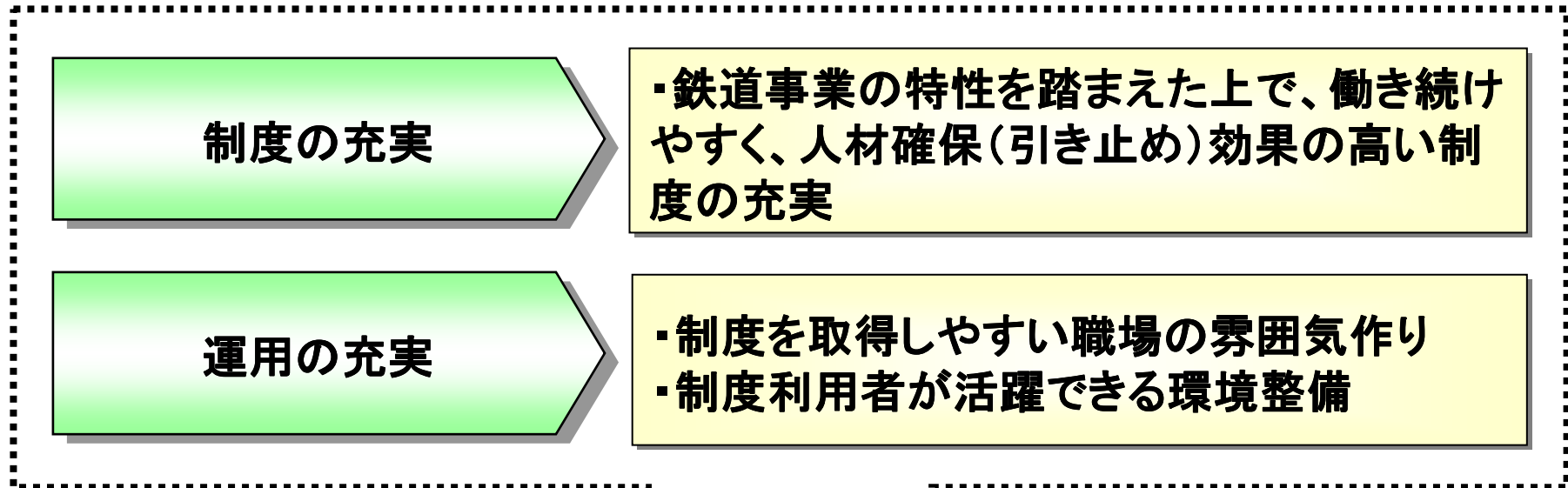
育児

- ・制度を充実させればさせるほど、シフト勤務への充当が困難になる。

環境面

職場の上司や同僚の理解が
まだまだ必要

今後の取組みの方向性



育児や介護の環境を整えることで人材の確保・パフォーマンス向上につなげる

安全性向上、品質・サービス向上

事業活動を通じて西日本地域の活性化に貢献していく